

学部・研究科名 地域環境科学部  
 学部長・研究科委員長名 矢口 行雄  
 学科名・専攻名 森林総合科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	現在の学科の教育・研究上の目的、教育目標、カリキュラムポリシーに基づき科目を配当している。	試験の結果や授業評価、授業中の学生の反応などをもとに、各教員が学生の学習意欲向上のための工夫を行っている。また、一部の授業ではアクティブラーニングを実施している。実習施設の充実、コンピュータやプレゼン機器などの物品も学科、各研究室で充実を図っている。	多くの教員が成績評価の基準、採点後の試験やレポートの返却、試験の解答例の明示などを実施している。	3・4年生は全員が研究室に所属し、学生と教員の距離が近い。単なる知識、技能の習得のみならず、ディプロマポリシーにある「問題発見応力」、「問題解決能力」、「コミュニケーション能力」の習得レベルを指導教員が把握し、評価している。	学部の教育点検委員会、学科内の将来構想委員会カリキュラム検討プロジェクトチーム、実習のあり方検討プロジェクトチーム、施設利用検討プロジェクトチームを設置し、現状の問題点を抽出したり、改善・向上策を検討、実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・卒業論文研究の前の3年生時にいずれかの研究室に所属し、研究室単位で専攻実験実習を行っている。	<b>【長所】</b> なし	<b>【長所】</b> なし	<b>【長所】</b> なし	<b>【長所】</b> 学科教員で少人数の各種のプロジェクトチームを作り、活発に動きやすい体制である。
	<b>【特色】</b> ・各研究室の専門的知識、技能を身につけることができる。また、教員との距離が近く、親身の指導ができる。	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・3年生時は学内での授業が多く、学外での教育・研究活動が難しい。	<b>【問題点】</b> ①と同様、学外活動を活発化させることが困難な現状にある。	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし
	<b>【課題】</b> ・学外活動を活発にできるようなカリキュラム改正以外に、学内での授業日程の工夫が必要と考える。	<b>【課題】</b> ①と同様。	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし
根拠資料名					

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	一般入試、センター試験利用入試の受験生に対しては、大学案内、大学ホームページ、オープンキャンパス、学科パンフレットなどでアドミッションポリシーを公開している。面接を伴う推薦計入試の受験生に対しては、面接の際にアドミッションポリシーにある要件を満たしているか、必ず確認している。また、指定校をはじめ、一般推薦入試の受験生を送り出していただける可能性がある高校には、出前授業や学校訪問を実施している。	入学予定者の入試制度別の人数割り振りについて、入試センターからの案をもとに、学科教員全員で検討を行っている。また、学科の将来構想委員会中高生応援プロジェクトチームを中心に、入学生の受験制度や出身高校などのデータを収集、分析し、指定校の見直し、学校訪問先の選定、学科パンフレットや学科PRパネルなど広報資料の修正・作成などを実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名		

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	先に大学に提出した学科の「教員組織の編制方針」のとおりであり、学科内で認識を共有している。	分野・研究室の編成見直し、教員の配置や年齢構成、将来的な人事計画（昇格、新規採用等）などを学科教授会や学科教員全員で検討している。	左記②での検討を踏まえ、新規採用については委員会を設けて募集時の採用要件の案作成、書類選考などを行っている。採用候補者はその後、公開でプレゼンテーションを行い学科教授会にて決定される。また、昇格については、学科組織の改革案や人事計画に基づき、学科教授会の総意で推薦している。	国外依命留学など中堅・若手教員の資質向上を図るための計画は現在策定中である。そのための分野・研究室間の教員協力体制も同時に検討している。 採用から日の浅い任期制教員については、学科長や分野・研究室教授（主任）の指導をはじめ、学科の委員会（将来構想委員会）や大学の各種委員などを通して資質向上を図っている。	分野・研究室体制の見直し、配置教員の適切性などについて、学科教授会や将来構想委員会などで毎年検討している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・本学科の特色は、森林に関連する広範囲な教育・研究分野をカバーできることである。	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名					

学部名 地域環境科学部  
 学部長名 矢口 行雄  
 学科名 生産環境工学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	当学科の教育カリキュラムは、農業工学の学問分野を基とした、農業土木学由来の2分野と農業機械学由来の1分野、それに情報工学由来の1分野の計4分野、さらに各分野2つの研究室で構成される。授業科目には、分野共通の基礎教育科目と分野毎に開講される専門科目、研究室毎に開講される演習科目がある。	1年次は、全学科共通の数学、力学系科目を必修科目として配置している。2年次の後期からは、分野ごとに開講する実験科目が配置され、専門基礎教育を行っている。3年次からは、研究室毎に開講される専門科目、実験・演習科目が配置され、専門性の高い就職、卒業研究へと繋げている。	成績評価の基準はシラバスに明記し、定期試験については正答の開示をうえて行った上で、希望学生には答案の返却を行っている。専門教育では、実験レポートの添削と返却を実施し、卒業研究については、学科全体で行う発表会への参加を義務づけている。これらを通して学位授与に相応しい人材育成を行っている。	ディプロマ・ポリシーに基づいて配置された、必修科目、基礎専門科目、専門科目、研究室教育、卒業研究関連科目が、連携するように配置されていることから、これらの科目の必要単位を修得させることにより、学習成果の把握・評価へと結びつけている。	学科内に、教育点検委員会、力学関連教育検討委員会、情報関連教育検討委員会、測量関連教育検討委員会、技術者教育検討委員会、教育システム評価を定期的開催し、学生の理解度、習熟度の変化について情報交換、意見交換を行い教育の改善、質の向上に対して恒常的に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・専門教育への導入を緩やかに、かつ効果的に行うことが可能である。 <b>【特色】</b> ・①分野分け、②研究室分け、③教員分け、と段階的に専門性を高める形で教育を行っている点。	<b>【長所】</b> ・専門性を生かした就職先への人材輩出が可能である。 <b>【特色】</b> ・地方の公務員（農業土木関係）への就職率が高く、地域の活性化地域創成に関与する人材育成を行っている。	<b>【長所】</b> ・向上心がある学生に対しては、モチベーションの高揚に繋がる。 <b>【特色】</b> ・個々の学生の学習成果に関してフィードバックが働く体制としている。	<b>【長所】</b> ・研究室の専門教育が充実する。 <b>【特色】</b> ・専門教育の成果を生かした就職ができている。	<b>【長所】</b> ・教員間の情報交換によって個々の学生に対応した効果的な教育が可能になる。 <b>【特色】</b> ・多くの委員会に掛け持ちで参加しなければならないが、教員の自己研鑽の時間がなくなる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・1教員が担当する人数を均等にするため、学生の希望に添えない場合がある点。 <b>【課題】</b> ・学生の希望に偏りが生じた場合、成績が高い学生の希望を優先して配分するため、成績の悪い学生の学習意欲を更に低下させてしまう場合がある。	<b>【問題点】</b> ・地方出身の学生を確保しないと、地方への人材輩出が難しい点。 <b>【課題】</b> ・地方出身の優秀な学生の確保。	<b>【問題点】</b> ・過去問の流出が恒常化するため、授業範囲全般に対して幅広く学習する姿勢が低下する。 <b>【課題】</b> ・学生のモチベーションを高揚させ、維持するための授業手法の模索。	<b>【問題点】</b> ・低学年科目を落としたり、編入生が低学年の必修科目を履修する場合、履修の順序の逆転が起き、理解が難しくなる。 <b>【課題】</b> ・専門必修科目の補間的内容の選択科目の履修をどう促すかが課題。	<b>【問題点】</b> ・超過勤務の原因になる。 ・コミュニケーション障害と思われる学生が増加傾向にあり、対応が後手に回っている。 <b>【課題】</b> ・教育熱心な一部の教員に集中的な労働荷重がかかる。 ・学力が伴わない学生への対応に要する時間が年々増加傾向にある。
根拠資料名	・分野分けアンケート ・分野名簿	・指定校リスト	・ポートフォリオ	・就職先リスト ・履修モデル	・委員会活動報告

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本学の入試制度は、センター試験利用型入試（3科目型、4科目型）、一般入試の他に一般推薦、指定校推薦、優先入試がある。このうち、指定校推薦の指定校の選抜および枠は学科に委ねられている。当学科では、学科における教育・研究・就職等の特徴を鑑み、地方の高校、農業高校から優秀な学生を採用すべく、指定校の選抜を毎年見直し実施している。推薦・優先入試における入学者の選抜には対しては、学科が独自で小論文、面接の内容を決定でき、学科長および4つの分野に所属する教員を適宜配置したチームによって、採点、面接を実施している。試験終了後は全教員により合否判定を行っている。センター利用型、一般入試についても、合否判定は学科の全教員が参加して行っている。	推薦系の入試制度においては、受験生に対し、面接試験時にアドミッションポリシーの理解度の確認を行って、ディプロマポリシーのミスマッチを避けるように心がけている。また、入学後の学生意向を、1年生に対して前学期1回、後学期1回、実施している個人面談で、調査した結果を踏まえ、学生受け入れの適切性について改善・向上を行っている。一般入試に関しては、大学ホームページや大学案内の記載内容の見直し、広報活動でのアピール項目の見直しで対応している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・地方出身の優秀な学生を情報が豊富で、学術的にも活性のある東京で教育して、地方に返す、まさに‘人物を畑に還す’という本大学のポリシーに準じるものである。	<b>【長所】</b> ・様々な入試制度を時間差を持って実施していることから、広報については柔軟に対応できている。
	<b>【特色】</b> ・様々な入試制度を併用することによって、同じクラス、あるいは同じ班に異なる知識や経験を有した同期生が共存する中で、学生生活を送ることができる。この経験は、社会に出てから役に立つ重要な経験となっている。	<b>【特色】</b> ・学科で独自で学年末に実施している満足度調査では、学年が上がるのに伴って満足度が上がる傾向が毎年見られる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・一般推薦、優先入試の定員は毎年若干名の見直しはあるものの、応募者の人数は年変動があり、受験生の希望に応じられていない場合がある。また、5,000校を越える高校の中から指定校を選抜し、維持していく業務は担当者の大きな負担となっている。	<b>【問題点】</b> ・アドミッションポリシーを正確に伝えるための広報活動を適性に、かつタイムリーな話題を交えて広報していくことには、多大な労力を要する。こうした広報活動は、担当者の大きな負担となっている。
	<b>【課題】</b> ・一般入試での高得点取得者は東京近郊の出身者が多数となり、学科の専門性、求人の地域性にそぐわない学生構成となってしまう。現在は指定校の選抜で考慮してはいるが、地方出身の優秀な学生の確保と受験倍率の維持は毎年課題となっている。	<b>【課題】</b> ・授業について行けないという理由で退学する学生や、転学科で本学科から他学科へ転出する学生が毎年若干名いる。
根拠資料名	・受験者数集計表	・大学案内 ・満足度調査結果

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	4分野、8研究室体制は平成10年の学部改組の時点で打ち出した体制で、その後、1研究室2名の教員体制を明示してきた。現在、従前の1研3人体制からの移行中であるが、平成34年度に達成される予定である。一学年を2年後期に4分割、3年前期に8分割、3年後期に16分割と段階的に分割するシステムである。	学科内に置かれた4つの研究分野は、生産環境工学の学問体系を背景としたもので、取り扱うべき研究課題を網羅的に受け止めることができる構成としている。1分野当たり4名、1研究室当たり2名の教員の配置は、学科のカリキュラムとリンクした体制で、理想的と考えられる。	教員の退職や転属に伴って欠員が生じた場合には、直ちに枠取り申請を実施し、適切な時期に適切な年齢構成になるよう公募を行い補充人事を行っている。昇格については、4月、10月の人事に合わせて業績調査を実施し、学科教授会において審議を行っている。業績が昇格基準に達した教員については直ちに昇格の申請手続きを行っている。	8研究室、教員2名体制はまだ達成されていない。2名体制となっている研究室は、現在まだ5研究室である。今後問題を抽出し、改善を行っていく予定であるが、現在はその体制の確立、充実に向けて努力中である。	教員組織の改善に向けてあるべき姿を打ち出し、その実現に向けて移行期間中である。よって、現在は改善・向上に向けた取り組みは行っていない。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・学生を均等に16分割することにより、学科の研究分野を継承する体制を作ることができる。	<b>【長所】</b> ・多数の学生を均等に配置することで、社会が要求する多様な人材を過不足なく輩出することができる。	<b>【長所】</b> ・定期的なアンケート調査を行い、全教授で評価を行っている。公明正大な人事を行うことができる。	<b>【長所】</b> (教育体制の構築に向けて努力しているが、新学科の増設等で計画が進んでいないため、まだ評価できない)	<b>【長所】</b> (教育体制の構築に向けて努力しているが、新学科の増設等で計画が進んでいないため、まだ評価できない)
	<b>【特色】</b> ・各教員が自身の研究分野を継続的に維持することができ、学生にも継承できる。	<b>【特色】</b> ・学科の守備範囲を適切に維持しながら社会のニーズに応えている。	<b>【特色】</b> ・本学では職階毎の人事枠の規定はないことから、基準さえクリアすればすぐに昇格人事が行える体制となっている。	<b>【特色】</b> (教育体制の構築に向けて努力しているが、新学科の増設等で計画が進んでいないため、まだ評価できない)	<b>【特色】</b> (教育体制の構築に向けて努力しているが、新学科の増設等で計画が進んでいないため、まだ評価できない)
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・学生の希望に偏りが生じた場合がある。	<b>【問題点】</b> ・法人や大学業務上の要職に付く教員が出た場合、研究室運営が若手の教員の大きな負担となる。	<b>【問題点】</b> ・業績評価の中で過去5年間の論文数を問う項目があり、作物等を研究対象としている場合、不利な場合が多い。	<b>【問題点】</b> (教育体制の構築に向けて努力しているが、新学科の増設等で計画が進んでいないため、まだ抽出できない)	<b>【問題点】</b> (教育体制の構築に向けて努力しているが、新学科の増設等で計画が進んでいないため、まだ抽出できない)
	<b>【課題】</b> ・希望した教員に付けなかった学生のケア。	<b>【課題】</b> ・学科の運営業務の流動的な配分方法の確立。	<b>【課題】</b> ・教員の専門や個性などの多様性を確保と、合理的な採用・昇格基準の両立。	<b>【課題】</b> (教育体制の構築に向けて努力しているが、新学科の増設等で計画が進んでいないため、まだ抽出できない)	<b>【課題】</b> (教育体制の構築に向けて努力しているが、新学科の増設等で計画が進んでいないため、まだ抽出できない)
根拠資料名	・分野分けアンケート ・研究室分けアンケート ・卒論担当者名簿	・各種委員割当、任期一覧	・業績調査アンケート ・学科推薦のための内規 ・学科教員年齢構成表		

学部・研究科名 地域環境科学部  
 学部長・研究科委員長名 矢口 行雄  
 学科名・専攻名 造園科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・カリキュラムポリシーに基づき、学習目標を学生に周知して授業を実施するとともに、レポート・試験を通して学生の学習目標達成度の評価を行った。 ・JABEE 認定校としての要件を常に確認し、自己点検を含めた、技術者教育の確認を継続する。また、第三者の審査による教育体制の点検を行った。				
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・授業シラバスの15回の定期的点検と教員相互の点検を実施する。 また、学生による授業評価と満足度評価を実施する。 ・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、点検、評価、を実施する。	<b>【長所】</b> ・授業シラバスの15回の定期的点検と教員相互の点検を実施する。 また、学生による授業評価と満足度評価を実施する。 ・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、点検、評価、を実施する。	<b>【長所】</b> ・授業シラバスの15回の定期的点検と教員相互の点検を実施する。 また、学生による授業評価と満足度評価を実施する。 ・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、点検、評価、を実施する。	<b>【長所】</b> ・授業シラバスの15回の定期的点検と教員相互の点検を実施する。 また、学生による授業評価と満足度評価を実施する。 ・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、点検、評価、を実施する。	<b>【長所】</b> ・授業シラバスの15回の定期的点検と教員相互の点検を実施する。 また、学生による授業評価と満足度評価を実施する。 ・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、点検、評価、を実施する。
	<b>【特色】</b> ・第三者の審査による教育体制の点検を行う。	<b>【特色】</b> ・第三者の審査による教育体制の点検を行う。	<b>【特色】</b> ・第三者の審査による教育体制の点検を行う。	<b>【特色】</b> ・第三者の審査による教育体制の点検を行う。	<b>【特色】</b> ・第三者の審査による教育体制の点検を行う。
現状説明を 踏まえた問題 点及び次年度 への課題	<b>【問題点】</b> ・新カリ科目「専攻研究」(3年後期必修)の具体的学修内容	<b>【問題点】</b> ・新カリ科目「専攻研究」(3年後期必修)の具体的学修内容	<b>【問題点】</b> ・新カリ科目「専攻研究」(3年後期必修)の具体的学修内容	<b>【問題点】</b> ・新カリ科目「専攻研究」(3年後期必修)の具体的学修内容	<b>【問題点】</b> ・新カリ科目「専攻研究」(3年後期必修)の具体的学修内容
根拠資料名					

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	大学で行われる入試説明会を通じて、学生募集の機会と学科の内容を周知できるように努めた。 造園科学科は、本学のアドミッションポリシーを踏まえ、「環境」と「緑」の分野に挑戦するため、次のような学生を求めています。 (1) 自然、緑（みどり）、生きもの、環境、まちづくり、景観、デザイン、生活、健康、文化、歴史などに興味と自然科学・社会科学・人文科学の知識を有している。 (2) 人間と自然が共生した空間や環境を実現するための植物・生物・地域・歴史に関する知識と論理的思考方法、コミュニケーション能力などの技術を備えた造園家、造園技術者として地域社会へ貢献することを目指している。	通常時や入試時期に、その時の状況等について学科内教員会で議論を行い、適切性について十分な議論と取り組みを行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・ 高校への周知が必要。 ・ 現状では評価が困難	【問題点】 ・ 現状では改善・向上の評価が困難
	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名		

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本学部・学科の教員組織の編制方針は、大学 HP に公開し、学内外に広く周知している。	専門分野ごとに、適切な人材が配置されるように努力している。	本年度は授業担当者として新たに2名を採用した。	異なる専門分野の人員配置については現状バラツキがあるため、組織的な対応が行われているとはいえない面も認められる。しかし、本年度は授業担当者として新たに2名を採用した。組織の充実・改善に努めている。	必ずしも定期的な点検は行っていないが、現在学部人事が進行しており、その際も適切な組織体制の維持・構築に向けて検討を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・複合的な専門指導体制が構築できる。	<b>【長所】</b> ・学部における教員編制が充実する。	<b>【長所】</b> ・優秀な教員の採用、昇格に伴い教育研究活動を展開することが可能となる。	<b>【長所】</b> ・授業担当者は本学出身であり、学科の状況に熟知しており、今後の組織の充実・改善にも適切な対応が可能である。	<b>【長所】</b> ・学部における教員編制が充実する。
	<b>【特色】</b> ・専門性の異なる人材の配置で多様な教育・研究体制を構築可能である。	<b>【特色】</b> ・新たな教員確保に伴い、学部教育の充実が図れる。	<b>【特色】</b> ・優秀な教員の採用、昇格に伴い専攻内の教育研究活動が活性化される。	<b>【特色】</b> ・学部生からの継続的な指導体制を整えることができる。	<b>【特色】</b> ・現状における人材確保の予定分野が明確である。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・今後学科内の教員数を十分に確保することが困難な場合が想定される。	<b>【問題点】</b> ・今後学科内の教員数を十分に確保することが困難な場合が想定される。	<b>【問題点】</b> ・今後専攻内の教員数を十分に確保することが困難な場合が想定される。	<b>【問題点】</b> ・今後、教員の数と時期を適切に考え、組織の充実・改善を検討する必要がある。	<b>【問題点】</b> ・人材を補充すべき分野は明確ではあるが、的確な有資格者を確保するに至っていない。
	<b>【課題】</b> ・教員確保に向けた、研究環境の充実を図る必要がある。	<b>【課題】</b> ・教員確保に向けた、研究環境の充実を図る必要と共に人材導入も含め、新たな人事体制を構築する必要性が考えられる。	<b>【課題】</b> ・教員確保に向けた、研究環境の充実を図る必要と共に人材導入も含め、新たな人事体制を構築する必要性が考えられる。	<b>【課題】</b> ・今後の学部人事の編制に際しても大学院組織と連携した人事体制を構築できるよう検討が必要である。	<b>【課題】</b> ・今後の学部人事の編制に際しても大学院組織と連携した人事体制を構築したい。
根拠資料名					

学部・研究科名 地域環境科学部  
 学部長・研究科委員長名 矢口 行雄  
 学科名・専攻名 地域創成科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 講じている <input checked="" type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」および事前相談資料「③教育課程等の概要」、「⑤授業科目の概要」に記載したカリキュラムポリシーおよび授業等科目群にしたがって、教育課程を体系的に編成している。	実習科目と専門科目との関連性を説明し、必要に応じて講義資料等の見直しを指導している。また、実習科目では実習内容毎に資料を配付し、自主学習を促している。	シラバスに成績評価基準を明記し、それに従った評価および単位認定を行っている。	現時点では、1年次生しか在籍しておらず、ディプロマポリシーの卒業に関する事項は満足していないが、その他の項目に関しては履修モデルに基づいた科目履修を指導している。	学科会議において教務関連事項について審議している。特に実習科目においては別途学科内委員会（実習検討委員会）を組織し、実習内容の検討を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・1年次から「地域づくり」を意識した教育を実施している。	【長所】 ・シラバスに沿って実施しているため、長所や特色は特にない。	【長所】 ・シラバスに沿って実施しているため、長所や特色は特にない。	【長所】 ・実習等の機会を通じて、ポートフォリオの作成を指導している。	【長所】 ・実習科目の連関を意識した検討を行っている。
	【特色】 ・1年次から実習科目を前・後期に配置し、実践的教育を行っている。	【特色】 ・シラバスに沿って実施しているため、長所や特色は特にない。	【特色】 ・シラバスに沿って実施しているため、長所や特色は特にない。	【特色】 ・地域づくりに資する人材育成を行っている	【特色】 ・1年次から実習科目を前・後期に配置し、実践的教育を行っている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	学生生活ハンドブック	講義要項	講義要項	学生生活ハンドブック 講義要項 大学案内 2017	地域創成科学科 教員会議議事録 学生生活ハンドブック

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	理系、文系を問わず、「地域づくり」に積極的に取り組める学生を募集し、様々な選抜試験を行っており、その結果を公表している。	入試選考会議は全教員が参加することとしており、学生の受け入れの適切性は担保されている。ただし、現時点では、1年次生しか在籍しておらず、十分なデータが揃っていないため、改善・向上に向けた取り組みを行うに至っていない。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・一般入試、センター試験入試では、学内他学科に比べて、幅広い科目選択を可能としている。また、推薦入試では「地域づくり」を意識した小論文を課し、選抜を行っている。	<b>【長所】</b> ・理系、文系を問わず、幅広い人材を募集している。
	<b>【特色】</b> ・大学案内では、「地域づくり」をキーワードとした学科紹介を行い、アドミッションポリシーを意識させている。	<b>【特色】</b> ・「地域づくり」に積極的に取り組める学生を募集している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・特になし	<b>【問題点】</b> ・特になし
	<b>【課題】</b> ・特になし	<b>【課題】</b> ・特になし
根拠資料名	大学案内 2017	地域創成科学科 教員会議議事録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学及び本学部の教員組織の編制方針を踏まえるとともに、本学科の教育研究上の目的、教育目標及び3つの方針を十分理解し、それらに対応する能力と意欲を備えている教員を配置する、としている。	地域創成科学を構成する各々の学問領域において、優れた教育能力、研究能力を備え、地域創成科学の発展に貢献できる教員を配置している。	学科設置1年目であり、昇格該当者はいない。また、学科完成年度までは教員の募集、採用に関して該当しない。	海外留学の機会を通じた新たな研究シーズの発見、これまでの研究領域の応用展開が期待できる若手教員に対して、積極的に海外留学を認めている。また、教員組織の改善に向けた取り組みの必要性を感じていない。	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した内容は、平成32年までは大きく変更してはいけないため、特段に見直しは行っていない。また、改善・向上に向けた取り組みの必要性を感じていない。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・教員組織の編制方針に記した通りであり、長所や特色は特になし。	<b>【長所】</b> ・地域創成科学科の人材育成目標の達成と円滑な学科運営を重視している。	<b>【長所】</b> ・特になし	<b>【長所】</b> ・1研究室あたり3名の教員を配置し、留学教員不在時の支援体制を整えている。	<b>【長所】</b> ・特になし
	<b>【特色】</b> ・教員組織の編制方針に記した通りであり、長所や特色は特になし。	<b>【特色】</b> ・「地域づくり」という幅広い研究領域に対応している。	<b>【特色】</b> ・特になし	<b>【特色】</b> ・実習は全教員が参加することで、留学教員不在時の支援体制を整えている。	<b>【特色】</b> ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・特になし	<b>【問題点】</b> ・特になし	<b>【問題点】</b> ・特になし	<b>【問題点】</b> ・特になし	<b>【問題点】</b> ・特になし
	<b>【課題】</b> ・特になし	<b>【課題】</b> ・特になし	<b>【課題】</b> ・特になし	<b>【課題】</b> ・特になし	<b>【課題】</b> ・特になし
根拠資料名	地域創成科学科 教員会議議事録 教員組織の編制方針	地域創成科学科 教員会議議事録 教員組織の編制方針		入江准教授留学同意書	

学部・研究科名 地域環境科学部  
 学部長・研究科委員長名 矢口 行雄  
 学科名・専攻名 森林総合科学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	◎ カリキュラム改正 次（平成33年度）のカリキュラム改正に向けて、分野・研究室体制の見直し、学科専門科目の科目、必修・選択の区分、内容、担当者、配当学年・学期などの見直し、カリキュラムツリーならびに履修モデルなどの作成を行う。また、学内外の実験実習や卒業論文研究の充実を図るため、その内容、担当者、配当学年・学期などを毎年度見直し、次の改正カリキュラムの内容と整合がとれるよう再構築する。	◎ 卒業生の質保証 問題発見能力、問題解決能力、分かりやすく表現できる記述力、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力などのスキルアップを図る。	◎ 大学院進学者の増加に向けた取り組み 入学定員の充足を図るべく、専門基礎能力の涵養に努める。
実行サイクル	<u>4</u> 年サイクル（平成 29 年～ 32 年）	<u>1</u> 年サイクル（平成 29 年～ 年）	<u>1</u> 年サイクル（平成 29 年～ 年）
実施スケジュール	① 現行カリキュラムの問題点・課題抽出、現行の実習科目内容の問題点・課題抽出 ② 学科専門科目の科目、必修・選択の区分、内容、担当者、配当学年・学期などの見直し、実習科目の内容、担当者、配当学年・学期などの見直し ③ カリキュラムツリーおよび履修モデルの作成、学外（演習林）実習科目の実施スケジュール作成 ④ 履修モデルの作成、および時間割の作成	研究室単位で行う3年生の専攻実験実習や4年生の卒業論文研究を通して、問題発見能力、問題解決能力、分かりやすく表現できる記述力、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力などのスキルアップを図る。そのために、各研究室で英論文を含む論文紹介を行う、卒業論文に取り組むための所信表明や中間発表を各研究室で行うことなどに取り組む。	専攻実験実習や卒業論文指導などを中心とする研究室活動の一層の充実を図る。具体的には、学生参加型のゼミの開催や学習成果の発表機会の充実、学外実習の充実などに取り組む。
目標達成を測定する指標	① 新カリキュラムにおける学科専門科目の確定 ② 新カリキュラムにおける実習科目の内容、スケジュール確定 ③ カリキュラムツリーの作成 ④ 履修モデルの作成 ⑤ 時間割の作成	① 専攻実験実習などにおける情報収集（文献調査など）やプレゼンテーションの評価 ② 卒業論文の中間発表会や発表会、提出論文などに関する評価	① 専攻実験実習などにおける評価 ② 卒業論文の中間発表会や発表会、提出論文に関する評価 ③ 学外実習機会の導入状況の確認など
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	教職課程の再課程認定申請に伴う大学からの指示により、数年先まで大きなカリキュラム改正が困難になった。しかし、その先に向けて現在学科の将来構想委員会で新カリキュラムやカリキュラムツリーを現在検討している。	3年次は専攻実験実習（一）・（二）を通して、4年次は卒業論文の作成を通して、各研究室において各種ゼミや実習・演習を実施した。また卒業発表会（3年生）、修論発表会（3・4年生）への参加などを促し、各所属研究室の教員が上記目標を達成できるよう指導・評価した。	大学院進学者は毎年一定数存在するが、他大学の大学院に進学する学生も多く、本学大学院に進む学生は少数である。しかし、学費免除などの新措置によって増加する傾向にある。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・なし 【特色】 ・なし	【長所】 ・なし 【特色】 ・なし	【長所】 ・なし 【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし 【課題】 ・なし	【問題点】 ・なし 【課題】 ・なし	【問題点】 ・進学志望者が少ない、他大学大学院への流出率が高い。 【課題】 ・本学大学院への進学志望者を増やす方策を考える。
根拠資料名			

2. 研究に関する総合的事項

	①	②
目 標	◎ 学内での連携による研究の推進 学科内、学部内、学内における研究交流の実現。	◎ 学外関係者との連携による研究の推進 学外における研究交流の実現。
実行サイクル	___2___年サイクル（平成 29 年～ 30 年）	___2___年サイクル（平成 29 年～ 30 年）
実施 スケジュール	単独研究あるいは同一専門内における研究に終始せず、学内他分野との連携強化を図り、共同研究の成果を論文などの形式により公表することを念頭に、初年度は研究内容の調整と研究計画の策定を実施。	学内における研究に終始せず、学外他分野との連携強化を図り、共同研究の成果を論文などの形式により公表することを念頭に、初年度は研究内容の調整と研究計画の策定を実施。
目標達成を測定する指標	① 連携実績の確認 ② 研究計画策定の確認 ③ 成果公表（準備）の確認	① 連携実績の確認 ② 研究計画策定の確認 ③ 成果公表（準備）の確認
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	本学のプロジェクト研究での学内教員による共同研究はこれまでいくつか実施してきた（現在もジブチ関連は継続中）が、新規の研究については本年度は検討不足であった。	個人や研究室レベルでの学外との研究交流はこれまでもあり、健在も継続中のものが多いが、左記①同様に学科レベルでの新規案件については今年度は検討できなかった。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・学生確保の方策検討，学生指導を伴う個人や研究室レベルの研究で飽和状態である。	【問題点】 ・左記同様。
	【課題】 ・学科内での研究を中心とした話し合い，学内での教員交流の促進が必要。	【課題】 ・学科教員間での情報交換が必要。
根拠資料名		

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	◎ 学科 PR 活動の強化 受験生の増加、質の高い学生確保に向けた学科広報のあり方を検討し、高校への出張講義や一般市民対象の講座など学内外において積極的な PR 活動を行う。また、学科パンフレットの見直しや学科関連の出版物刊行など PR 活動の充実を図る。	◎ 危機管理体制の改善・強化 学科内に既に設置してある「危機管理委員会」および「将来構想委員会」などの連携を強化し、各種ハラスメントおよび事故などの発生防止に努めるとともに、万が一の事案発生についてシミュレーションを行う。	◎ 卒業生（同窓会）との連携強化 同窓会組織等と連携し、相互に資する関係の強化を図り、学生の確保、卒業生の就業機会の確保に努める。また、同時に学科の社会貢献の一環として位置づける。
実行サイクル	3 年サイクル（平成 29 年～ 年）	1 年サイクル（平成 29 年～ 年）	1 年サイクル（平成 29 年～ 年）
実施スケジュール	① 指定校を見直し、質の高い学生を確保 ② 高校への出張講義などを増加、学科の PR ③ 全国の高等学校森林・林業教育関係者との連携を図り、大学・学部・学科の PR を行う ④ パンフレットなどの見直しを行う	① 危機管理委員会の開催 ② 将来構想委員会の開催 ③ 危機管理委員会および将来構想委員会の連携	① 学科教員の同窓会活動への参加 ② 同窓生による学科学生のための各種行事（講座など）の開催 ③ 卒業生名簿などの整備
目標達成を測定する指標	① 指定校の見直しを確認 ② 高校への出張講義などの増加状況の確認 ③ 全国の高等学校森林・林業教育関係者との連携実態の確認 ④ パンフレットなどの見直し状況の確認	① 危機管理委員会の開催確認 ② 将来構想委員会の開催確認 ③ 危機管理委員会および将来構想委員会の連携状況の確認 ④ 学生の学内外における活動の規定・ガイドラインやマニュアルなどの整備	① 学科教員の同窓会活動への参加状況の確認 ② 同窓生による学生のための各種行事の開催状況の確認 ③ 卒業生名簿の完備状況の確認
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	将来構想委員会中高生応援プロジェクトチームを中心として以下を実施した。 ・高校への出前講義：県立高崎（群馬県）、県立勢多農林（群馬県）、高崎健康福祉（群馬県）、東京農業大学第二（群馬県）、都立八丈（東京都）、県立八重山農林（沖縄県）など ・学外での学科 PR：ハイウェイ・テクノフェア（主催：高速道路調査会、2017.11、東京ビッグサイト） ・一般市民への講義：東京農業大学カレッジ講座（東京都）、青梅市の森公開講座（東京都）ほか ・学科リーフレットと「研究室／教員紹介および出張講義のご案内」を作成。また、奥多摩演習林の資料館に使用されている木材に関するリーフレットを作成。JR 奥多摩駅や群馬県川場村の宿泊施設などにも常置した。	学科危機管理委員会のほかに将来構想委員会リスク管理検討プロジェクトチームを組織し、本学科学生の主に研究室活動に関する危機管理について検討を行った。具体的には、学生の研究活動に伴う自動車運転に関する学科内の申し合わせ（暫定版）の作成し運用を始めた。また、「演習林内での実習および調査・実験における安全の手引き（学生用）」の内容を見直して 2017 年度版を作成し、学生・教員全員に配布した。そのほか、学生の飲酒、終夜活動について、教員全員で再確認を行った。	学科内組織である林友会（現役学生＋学科教員）と林学同窓会との共催で「卒業生と語る会」や学科の「業界研究会」などを開催し、学生の就職に関するサポートを行った。また、学科教員が同窓会の役員、幹事として参画し、総会、役員会、幹事会への出席や、同窓生名簿整備の担当など相互の連携強化を図った。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名			

学部・研究科名 地域環境科学部  
 学部長・研究科委員長名 矢口 行雄  
 学科名・専攻名 生産環境工学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	生産環境工学科における基礎教育の改善	個人面談の実施と学生カルテの作成	教員による授業視察結果の活用法の検討
実行サイクル	<u>4</u> 年サイクル（平成29年～4年）	<u>2</u> 年サイクル（平成29年～4年）	<u>4</u> 年サイクル（平成29年～3年）
実施スケジュール	平成29年の1年生から年2回の個人面談を実施し教育システムの改善方法の検討を行う。	今年度の1年生から行う。実施時期は6月。	教員1人当たり年間2回（前期、後期各1回）の視察を課し、報告書を提出する。
目標達成を測定する指標	GPAの分布と推移	学生と教員とのコミュニケーション回数。 全体のGPAの分布と推移	学生による授業評価アンケートにより改善効果を確認する
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	理系科目の基礎学力の低下が著しく、4年次の卒業研究に於いてもレベルの低下が著しい。基礎教育のあり方を見直し、底上げを図る必要がある。 平成30年度からは、年2回の面談に加え、数学の学習支援（補講）を全教員で行う。教科書を選定等、準備中である。 平成29年度9月から、全学年のGPAが1未満の学生を対象に面談を行った。	学生10名/教員1名の体制で実施している。昨年度試験的な実施を行ったが聴取し、データの管理の観点から、カルテは手書きとし事務室の施錠ラックで一括管理することとした。	3年間の実施実績のみで、データの活用は行っていない。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・専門教育の充実、専門分野を活かした就職の実現	【長所】 ・学生のコミュニケーション能力の改善、メンタルセキュリティの向上	【長所】 ・他の教員の授業を見ることにより自分の授業の改善が出来る
	【特色】 ・学科の自己認識と社会的貢献の向上に繋げる	【特色】 ・学問的なサポートにより、メンタル面でも良い効果が期待できる	【特色】 ・教員間の信頼関係、友好関係の向上
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・達成度別クラス分け教育における数学教員の不足	【問題点】 ・教員の時間の確保	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・受講生のやる気・向上心の高揚と維持	【課題】 ・教員の適正、学生との相性	【課題】 ・なし
根拠資料名	成績表、学生カルテ	学生カルテ	授業視察報告書

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	学部生の学会参加の促進による専門分野への学生の意識向上	卒論発表会の実施による学科内での研究情報の共有	大学院進学率の向上
実行サイクル	4年サイクル（平成29年～4年）	1年サイクル（平成29年～1年）	2年サイクル（平成28年～2年）
実施 スケジュール	教員が加入している学会での発表、シンポジウム参加の促進 （随時）	1月19日、学科全体で8会場、同日開催し、1会場当たり2名の教員が 参加した。	・入学式、教育懇談会において大学院教育を案内する ・学部3、4年生を対象に説明会、アンケート調査を実施 （大学院入試の前の月（5月、12月）の2回）
目標達成を測 定する指標	参加回数	評価表	受験者数の実績
自己評価 （☑を記入）	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学科長特別賞を設定し、学部生で学会発表を行った学生を卒業式で表 彰している。平成29年度実績は8名で前年度の2倍ある。 大学内での研究会参加は、授業振り替えなどで対応している。	学科全体での卒論発表会の実施は既に40年の歴史がある。新人教員の意 識向上に役立つものとする。	大学院の進学率は変動が大きい。景気の浮き沈みによって求人倍 率が就職率が変動したり、保護者の経済的な要因にも関係してい ると思われる。大学院入試の広報も行っているが効果は出ていな い。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・関係専門分野への関心、貢献心の高揚	【長所】 ・学科内教員間での情報共有による教員間の意識向上	【長所】 ・
	【特色】 ・会費助成の活用により他大に比し優位に展開	【特色】 ・教員の専門分野の相互理解が深り、常に前向きな議論が出来る	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・学生の授業と教員、学会日程との不整合	【問題点】 ・開催当日に授業がある教員への対応。	【問題点】 ・
	【課題】 ・学生の基礎学力、研究レベル	【課題】 ・なし	【課題】 ・
根拠資料名	・学科長特別賞申請書（講演要旨添付） ・シンポジウム等参加者名簿	・発表プログラム ・発表会場毎のPPTデータ	

3. その他に関する総合的事項

	①	②
目 標	地方出身の優秀な学生確保	学科の課外活動組織（農工会）主催の就職セミナー、業界研究会の開催による専門性を活かした就職支援
実行サイクル	4年サイクル（平成28年～4年）	4年サイクル（平成28年～4年）
実施スケジュール	毎年6月始めに行う指定校推薦を活用する。 入学後の成績・就職先について追跡調査を行い、指定校との関係を樹立し、育む。	・3年次生対象：12月 業界研究会 ・4年次生対象：4月 就職セミナー
目標達成を測定する指標	地方出身学生の就職先	専門性を活かした就職先への就職率
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	昨年度学科に配付された高校ランキングを活用し、地方高校からの採用を優先的に実施した結果、ランクの高い地方高校から2名が入学した。	平成29年の12月に開催した業界研究会には、官公庁から17団体、ゼネコン・建設分野22社、コンサル20社、機械製造・販売3社が参加した。業界研究会は、13:00から横井講堂で全体会、その後14:40からは業種毎に3教室に分かれて、個別相談部ブース形式とした。学生参加者は、全体会は授業振り替えも実施して行った結果約100人、個別相談ブースは約40人の参加であった。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・地方公務員の求人への対応により地域社会への貢献度が増す	【長所】 ・学科の社会貢献をアピール出来、卒業生からの要求に応えられる
	【特色】 ・農大で専門教育を受けた学生を地域に帰す＝人物を畑に帰す	【特色】 ・学科の専門教育を受けた卒業生を全国展開できる（人物を畑に還す）
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・地方の優秀な学生を確保する方策に乏しい	【問題点】 ・地方の優秀な学生を確保する方策に乏しい
	【課題】 ・	【課題】 ・セミナー開催時期の選定と担当教員の負担
根拠資料名	指定校の受験実績と当該学生の追跡調査結果	・セミナー参加企業数 ・セミナー参加学生数 ・専門を生かした就職率

学部・研究科名 地域環境科学部  
 学部長・研究科委員長名 矢口 行雄  
 学科名・専攻名 造園科学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	都市環境から自然環境に至るまでの育成と保全に科学的かつ実践的に対応できる者を養成することを目標とする。	新たな環境を計画的、デザイン的に創成できる者を養成することを目標とする。	技術と実践力をもって自然環境の利活用を生態技術的、環境芸術的に処理できる者を養成することを目標とする。
実行サイクル	8年サイクル（平成29年～37年）	8年サイクル（平成29年～37年）	8年サイクル（平成29年～37年）
実施スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムポリシーに基づき、学習目標を学生に周知して授業を実施するとともに、レポート・試験を通して学生の学習目標達成度の評価を行う。</li> <li>・JABEE認定校としての要件を常に確認し、自己点検を含めた、技術者教育の確認を継続する。また、第三者の審査による教育体制の点検を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムポリシーに基づき、学習目標を学生に周知して授業を実施するとともに、レポート・試験を通して学生の学習目標達成度の評価を行う。</li> <li>・JABEE認定校としての要件を常に確認し、自己点検を含めた、技術者教育の確認を継続する。また、第三者の審査による教育体制の点検を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムポリシーに基づき、学習目標を学生に周知して授業を実施するとともに、レポート・試験を通して学生の学習目標達成度の評価を行う。</li> <li>・JABEE認定校としての要件を常に確認し、自己点検を含めた、技術者教育の確認を継続する。また、第三者の審査による教育体制の点検を行う。</li> </ul>
目標達成を測定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業シラバスの15回の定期的点検と教員相互の点検を実施する。</li> <li>また、学生による授業評価と満足度評価を実施する。</li> <li>・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、点検、評価、を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業シラバスの15回の定期的点検と教員相互の点検を実施する。</li> <li>また、学生による授業評価と満足度評価を実施する。</li> <li>・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、点検、評価、を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業シラバスの15回の定期的点検と教員相互の点検を実施する。</li> <li>また、学生による授業評価と満足度評価を実施する。</li> <li>・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、点検、評価、を実施する。</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、授業シラバスを教員相互で点検するとともに、年度内に2回、学生による授業評価と満足度評価を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、授業シラバスを教員相互で点検するとともに、年度内に2回、学生による授業評価と満足度評価を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、授業シラバスを教員相互で点検するとともに、年度内に2回、学生による授業評価と満足度評価を実施した。</li> </ul>
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・教員相互の点検によるシラバスのチェックが可能	<b>【長所】</b> ・教員相互の点検によるシラバスのチェックが可能	<b>【長所】</b> ・教員相互の点検によるシラバスのチェックが可能
	<b>【特色】</b> ・第三者の審査による教育体制の点検を行う。	<b>【特色】</b> ・第三者の審査による教育体制の点検を行う。	<b>【特色】</b> ・第三者の審査による教育体制の点検を行う。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・新カリ科目「専攻研究」(3年後期必修)の具体的学修内容・	<b>【問題点】</b> ・新カリ科目「専攻研究」(3年後期必修)の具体的学修内容・	<b>【問題点】</b> ・新カリ科目「専攻研究」(3年後期必修)の具体的学修内容・
	<b>【課題】</b> ・新カリ科目「専攻研究」(3年後期必修)の具体的学修内容	<b>【課題】</b> ・新カリ科目「専攻研究」(3年後期必修)の具体的学修内容・	<b>【課題】</b> ・新カリ科目「専攻研究」(3年後期必修)の具体的学修内容・
根拠資料名			

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	造園科学のバックボーンである植物、植生、そして自然を科学し、生物技術による環境創成を扱うことを目標とする。	地域らしさを常に考え、地域の環境計画と場のデザインに貢献する造園手法を追求することを目標とする。	造園科学が適用される空間を建設するエンジニアリング分野で、建設技術工学、建設施工管理の理論と実務を扱うことを目標とする。
実行サイクル	___ 8 ___ 年サイクル (平成29年～37年)	___ 8 ___ 年サイクル (平成29年～37年)	___ 8 ___ 年サイクル (平成29年～37年)
実施スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本造園学会、都市計画学会、土木学会等学会活動を行う。</li> <li>・国際学会等の活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本造園学会、都市計画学会、土木学会等学会活動を行う。</li> <li>・国際学会等の活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本造園学会、都市計画学会、土木学会等学会活動を行う。</li> <li>・国際学会等の活動を行う。</li> </ul>
目標達成を測定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査付き学術論文掲載数</li> <li>・国際的英文誌掲載数</li> <li>・国際会議プロシーディング掲載論文数</li> <li>・著作数</li> <li>・外部資金獲得状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査付き学術論文掲載数</li> <li>・国際的英文誌掲載数</li> <li>・国際会議プロシーディング掲載論文数</li> <li>・著作数</li> <li>・外部資金獲得状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査付き学術論文掲載数</li> <li>・国際的英文誌掲載数</li> <li>・国際会議プロシーディング掲載論文数</li> <li>・著作数</li> <li>・外部資金獲得状況</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本造園学会、都市計画学会、土木学会等学会活動を行っている。</li> <li>・国際学会等の活動を行っている。</li> <li>・外部資金獲得に向けて努力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本造園学会、都市計画学会、土木学会等学会活動を行っている。</li> <li>・国際学会等の活動を行っている。</li> <li>・外部資金獲得に向けて努力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本造園学会、都市計画学会、土木学会等学会活動を行っている。</li> <li>・国際学会等の活動を行っている。</li> <li>・外部資金獲得に向けて努力している。</li> </ul>
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・専門分野で研究  <b>【特色】</b> ・芝草学会、民間企業との共同研究	<b>【長所】</b> ・専門分野で研究  <b>【特色】</b> ・コンペ等への参加、民間企業との共同研究	<b>【長所】</b> ・専門分野で研究  <b>【特色】</b> ・土木学会、民間企業との共同研究
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・教育・研究のバランスを配慮することが必要である。  <b>【課題】</b> ・教育・研究のバランスを配慮することが必要である。	<b>【問題点】</b> ・教育・研究のバランスを配慮することが必要である。  <b>【課題】</b> ・教育・研究のバランスを配慮することが必要である。	<b>【問題点】</b> ・教育・研究のバランスを配慮することが必要である。  <b>【課題】</b> ・教育・研究のバランスを配慮することが必要である。
根拠資料名			

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	・海外研究機関や組織等との学術交流によるグローバル教育の推進 ・学部や学科の組織と海外の大学あるいは研究組織との学術連携により、交流を図る。	・産・官・学の連携による実学教育の推進	・地域連携による実践的な教育研究と社会貢献の推進
実行サイクル	___ 8 ___年サイクル（平成29年～37年）	___ 8 ___年サイクル（平成29年～37年）	___ 8 ___年サイクル（平成29年～37年） <u>1</u>
実施スケジュール	・海外の研究者、技術者による特別講義開催、学術交流校等との共同プロジェクト研究等の実施によりグローバル社会への適応能力向上を図る。	・産・官・学との連携により、実践的な演習・実習授業およびフィールドワークを通しての実務能力の向上を図る。	・地域との連携により、実践的な研究プロジェクト等の実施による実務能力およびコミュニケーション能力の向上とともに、社会的意義の高揚を図る。
目標達成を測定する指標	・学術交流にかかわる特別講義、特別授業、あるいは共同研究プロジェクト等の実施回数あるいは教員や学生の参加者数などによって評価する。また、それらの継続的交流のためのプログラムを作成する。	・演習等における設定課題テーマの内容、課題成果の発表・講評、ならびに評価を実施する。これには業界で実践する技術や内容について非常勤講師や客員教授による授業、演習、実習などの実施。 ・学科独自の教育プログラムである「京都庭園研修」などは、実務的な特別プログラムとして位置づけができ、参加者数や内容の確認と継続によって評価する。 ・地域連携による活動プロジェクト等の実態と内容を評価する。	・演習等における設定課題テーマの内容、課題成果の発表・講評、ならびに評価を実施する。これには業界で実践する技術や内容について非常勤講師や客員教授による授業、演習、実習などの実施が重要である。 ・学科独自の教育プログラムである「京都庭園研修」などは、実務的な特別プログラムとして位置づけができ、参加者数や内容の確認と継続によって評価する。 ・地域連携による活動プロジェクト等の実態と内容を評価。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	・台湾東海大学景観学科学生の受入（7・8月） ・南京林業大学風景園林学院との交流（7月） ・ミシガン州立大学ムラリ教授特別講義（5月） ・北京林業大学林教授特別講義（11月）	・非常勤講師や客員教授を演習等の成果発表会（7月）を実施した。 ・実学教育の点検の機会を設けた。「京都庭園研修」（9月、2月） ・「三陸復興ランドスケープデザインツアー」（3月）等を実施。	・これまで継続的におこなってきた石川県輪島市との地域住民と学生と一緒に企画・運営する連繫活動を実施。 ・2017 造園科学科地方緑友会（沖縄）を実施（2月） 造園科学科後継者プログラムにより、公園の建設現場見学会。 ・2017 造園科学科緑のフォーラムを実施（5月）
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・海外大学との交流  <b>【特色】</b> ・海外大学との交流	<b>【長所】</b> ・「京都庭園研修」等独自のプログラム  <b>【特色】</b> ・「京都庭園研修」等独自のプログラム	<b>【長所】</b> ・造園科学科緑友会との連携  <b>【特色】</b> ・造園科学科緑友会
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・共同研究が不十分。  <b>【課題】</b> ・特別講義や授業での交流はなされたが、共同研究が不十分。	<b>【問題点】</b> ・産・官・学の連携による実学教育をさらに推進する。  <b>【課題】</b> ・産・官・学の連携による実学教育をさらに推進する。	<b>【問題点】</b> ・産・官・学の連携による実学教育をさらに推進する。  <b>【課題】</b> ・地域連携による実践的な教育研究と社会貢献の推進。
根拠資料名			

学部・研究科名 地域環境科学部  
 学部長・研究科委員長名 矢口 行雄  
 学科名・専攻名 地域創成科学科

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	学科の目的である「水資源や食料生産，環境保全等の役割を担ってきた農山村地域の保全・再生，持続的発展など、地域の創成に貢献できる人材を輩出する」ため，学科のディプロマポリシーを学生に周知し，それに基づく教育を実践する。
実行サイクル	4年サイクル（平成 29 年～ 32 年）
実施スケジュール	(1) 講義・実習・演習を通じて農山村地域の現状と課題に関する学びを深めさせる。(1～2年次) (2) 地域との協働を通じて農山村地域の持続的発展に必要な技術と経験を身につけさせる。(2～3年次) (3) 出口である就職先を意識させるとともに各研究室において専門的な教育・研究を実施する。(1～4年次)
目標達成を測定する指標	設立初年度のため，一年次生を対象に以下を確認する。 (1) フレッシュマンセミナーの実施記録 (2) 地域交流実習，フィールド実習(一)の成果
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	平成29年度は地域創成科学科の設立一年目にあたる。先述した教育に関する総合的事項の目標と実施スケジュールに基づき、特にフレッシュマンセミナー、地域交流実習、フィールド実習(一)において、(1)農山村地域の現状と課題に関する学びを深めさせるとともに、(2)出口である就職先への意識付けをおこなった。例えば、一年前期のフレッシュマンセミナーでは、地域創成科学科の設立目的と4年間の流れ、卒業後の進路について説明した。群馬県川場村で実施したフィールド実習(一)では、リンゴの摘花作業、電気柵の設置、雑木の伐採、紅花の種蒔きなどの農作業をおこない、農家の方々を招いて農山村地域の現状と課題について討論した。さらに、大学の演習室において、農作業の目的・方法・意義・課題などをグループ毎にパネルにまとめ、プレゼンテーションをおこなった。一年後期のフィールド実習(一)では、より科学的・専門的な技術を身につけるため、植物、水質、土壌、地形、景観、気象・防災の6つのテーマを設定し、学内外での実習と実験、レポート作成等を実施した。
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・様々な地域との連携実績があること、学生定員数が少ないこと、各教員の専門分野が多岐に及ぶこと、などを積極的に活用することによって、地域創成科学科ならではの教育が可能となる。 <b>【特色】</b> ・現地での作業・交流・調査に加えて、演習室での議論・取りまとめ・プレゼンテーションを実施することで、実践的かつ能動的な教育をおこなっている。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし <b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	学科ホームページ，講義要項

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	競争的研究資金等の積極的な導入により地域創成に関わる実学研究を推進させる。また、学会発表や学術論文、シンポジウム等を通じて、最新の研究成果を学外に積極的に発信する。
実行サイクル	1 年サイクル (平成 29 年～ 30 年)
実施スケジュール	(1) 研究資金獲得：原則として教員全員が競争的研究資金に申請 (2) 研究成果発表：国内外の学会大会や学術雑誌等で研究成果公表 (3) 活動成果発信：学科 Web 等で活動成果を発信する
目標達成を測定する指標	以下の項目を確認する。 (1) 研究資金の申請・獲得状況 (2) 研究成果の公表状況 (3) 学科 Web 等での研究成果発信状況
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	各教員がそれぞれの専門分野において積極的に活動し、成果を公表している。個別具体的な研究成果については、自己点検評価の一環として大学の公式 HP に掲載されており、そちらを参照して頂きたい。その他の特筆すべき成果としては、地域創成科学科として実施中の大学戦略研究プロジェクト「伝統的農地管理による生物多様性ならびに国土保全の評価と持続的地域防災マネジメントの構築」(平成 28 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 年) が挙げられる。本課題は、(1)2013 年の豪雨や 2016 年の地震の被災地であり、二次草原が広がる熊本県阿蘇地域、(2)2014 年の神城断層地震による地すべり被災地であり、棚田が維持されている長野県小谷地域、(3)2011 年東日本大震災の被災地であり、江戸期以来の屋敷林・防潮林が今も残る岩手県・宮城県沿岸地域、の 3 地域を対象に、生物多様性調査、空間情報解析、災害シミュレーション、社会調査・地域連携・合意形成、という 4 つの視点から「地域づくり」を考えるものであり、地域創成科学科の全教員が参加している。平成 29 年度はプロジェクト 2 年目にあたるが、既に様々な成果が得られつつある (根拠資料参照)。
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・各教員の専門分野が多岐にわたる  <b>【特色】</b> ・それぞれの専門分野を活かした研究を実施するとともに、戦略研究プロジェクトなどを通して、分野横断的な活動をおこなっている
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし  <b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	平成 29 年度東京農業大学大学戦略研究プロジェクト研究成果概要

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	様々な地域を対象とした「地域づくり」プログラムの実施
実行サイクル	1 年サイクル (平成 29 年～ 30 年)
実施 スケジュール	(1) 学科教員が個人的に実施する地域連携プログラムを推奨・支援する。 (2) 学科として組織的に実施する地域連携プログラムへの参加を促し、学生への教育にフィードバックする。
目標達成を測 定する指標	以下の項目を確認する。 (1) 地方自治体等と共同研究を推進するための補助金等の獲得状況 (2) オープンキャンパス等における活動成果の公表状況
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	先の教育及び研究に関する総合的事項で挙げたとおり、各教員の活動分野は多岐にわたっている。個人や研究室レベルでの地域連携先としては、熊本県阿蘇地域、長野県小谷地域、福島県鮫川村、岩手県・宮城県沿岸地域など、枚挙に暇がない。学科としては特に群馬県川場村との連携が盛んであり、フレッシュマンセミナーや地域交流実習を実施するとともに、個人や研究室レベルでも頻繁に行き来している。学生に対してはポータルや講義・演習を通じて、これらの活動への積極的な参加を呼びかけており、行き先や活動内容に応じて数名～20名程度の学生が参加している。活動成果の一部はパネル化し、オープンキャンパス等で一般に向けて公表した。さらに、学科HPにおいて、学科ニュース・研究室ニュース・学科ブログ・地域創成最前線(ポスター集)といった項目を立て、地域連携を含めた学科の活動内容を公表している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・学科及び各教員の地域連携プログラムを積極的に奨励・支援することで、研究・教育活動を活性化している。
	<b>【特色】</b> ・地域創成科学科の設立目的である「地域づくり」に向けて、実践的かつ科学的な活動をおこなっている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	学科ホームページ